



両 中 四 季

両川中学校 学校だより

令和6年7月1日(月)



なわ跳びとバイオリン

～定期テストを前にして～

昨年の10月、千住 真理子（せんじゅ まりこ）さんという、世界的にも有名なバイオリニストが、村上市でコンサートを開きました。私は聴きに行きたかったのですが、遠くて行けませんでした。この方は大学の「哲学科」を卒業している、音楽家としてはちょっと変わった経歴の持ち主です。

先日千住さんがあるラジオ番組に出演された時に話されていたお話が印象に残ったので、皆さんにも紹介します。



千住さんが幼稚園の時、先生が一本ずつ縄を配って縄跳びの練習をさせたそうです。園児は毎日一生懸命練習しました。千住さんも繰り返し練習するうちに二重跳びや三重跳びができるようになり、とても嬉しかったそうです。練習をしていると、縄の中央がすり減ってきて、ついに切れてしまいます。その時に先生は、「一生懸命練習する人の縄は切れる。その代わり必ず跳べるようになる」と言っていたそうです。



大人になって千住さんがバイオリンの練習をしていて、どうすれば難しい部分を上手に弾くことができるか悩むと、幼稚園の縄跳び練習で先生が言ったこの言葉を思い出します。そして何十回、何百回と同じ場所を練習するうちに、縄跳びの縄がすり減るように、バイオリンの弦を押さえる指が、弦の形にへこんでくる・・・

やがていつのまにか指が動き、曲が弾けるようになったそうです。

技術的な点で縄跳びとバイオリンの練習は結びつきはありません。千住さんが言おうとしたのは、精一杯努力した経験はたとえ分野が違ってても後で生きてくるということだと思います。

生徒の皆さんはあと少しで最初の定期テストですね。頑張っていますか？千住さんのお話から考えると今の皆さんの取り組みは単にテストのためだけではないのです。楽な道を選ばず、努力を必要とすることにチャレンジしていけば、その経験はどこかで必ず役立ちます。皆さんが運動会で一生懸命取り組んだことも、今の学校生活で生かされていることが多いと思います。チャレンジすることが大切。皆さんの頑張りを期待しています。

